



～自他共栄～ NO.3

2024年8月18日

発行責任者 根岸 大智

編集責任者 情 宣 部

原爆投下から79年 核兵器廃絶にむけて考える“if”

広島と長崎に原子爆弾が投下されてから79年をむかえました。広島市と長崎市では、それぞれの「原爆の日」に平和祈念式典が執り行われました。

8月9日、福岡県北九州市でも「北九州市原爆犠牲者慰霊平和式典」が開催されました。式



典会場の勝山公園には、かつて「小倉陸軍造兵廠」と言う兵器工場があり、長崎に投下された原爆の第一投下目標でもありました。しかし、前日に近隣地域で起きた空襲の煙によって上空の視界が悪く、爆撃機は第二目標である長崎に向かったのです。

式典では、公園近くの中学校に通う2年生・山本結莉さんが「平和メッセージ」を読み上げました。

「もし小倉に投下されていたら、中学校や自分の家は跡形も無くなっていたと気づいた。平和に過ごすことができるのは当たり前のことではない。」

「起きてしまった悲しい過去を変えることや失われた命を取り戻すことはできない。私たちにできるのは過去にしっかり向き合い、平和の大切さを考え、後世に伝えていくこと」

もし、今あなたの頭上で核爆弾がさく裂したら…。

目を閉じて想像してください。(略)79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。「ドーン!」という鼓膜が破れるほどの大きな音。(略)人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。(令和6年度「平和への誓い」、広島平和記念式典)



世界中の皆さん、私たちは、地球という大きな一つのまちに住む「地球市民」です。想像してください。今、世界で起こっているような紛争が激化し、核戦争が勃発するとどうなるでしょうか人命はもちろんのこと、地球環境にも壊滅的な打撃を与え、人類は存亡の危機に晒されてしまいます。(令和6年「長崎平和宣言」、長崎平和記念式典)

被爆者の平均年齢は85歳を超え、実際の体験を語れる方は年々少なくなっています。私たちは、市民が犠牲になった唯一の戦争被爆国として、同じ過ちを繰り返し、自分自身または自分の子孫が核兵器の被害に遭わないようにするためにも、核兵器とその被害の実相を学び、未来に引き継ぐことで、核兵器がない「真の平和」な世界をつくる必要があります。

「願うだけでは、平和はおとずれません」

原爆・戦争の実相を学び、想像して、「真の平和」を築くために行動しよう!!